

☆川の自然観察体験授業案

林 美恵子

- 1 時間:45分授業
- 2 学習対象:小学生
- 3 場所:荒川本流はじめ市内中小河川の河川敷
- 4 目標:川の自然観察を通して川に親しみ、身近に感じ、川や自然の大切さを体感する。
- 5 時間配分:

あいさつ、講師紹介	1分
自然観察上の注意・説明	3分
自然観察 (草花遊び、簡単なネイチャーゲームなども)	35分
まとめと振り返り	6分

6 授業展開:

- ①自然観察に入る前に、観察を行う場所の危険な箇所、観察を行う際の心構えなどを話す。
- ②その季節の野鳥、昆虫、植物等を観察する。動植物などの興味深いエピソードも交えながら、自然の営み、仕組みを学年に応じて分かりやすく子供たちに感じ取ってもらう。
- ③自然観察の中に、その観察ポイントにある植物を活用した草花遊び、観察ポイントの地理的条件や子供たちの学年、人数の条件等でできる簡単なネイチャーゲームなども取り入れ、自然観察体験を行う。
- ④まとめと振り返りで、この日に出会い、発見したものを確認する。そうした中で、自然の楽しさだけでなく、自然や環境が現在、厳しい状況になっていることも子供たちに知ってもらう。

7 準備するもの:

講師:動植物図鑑

学校:拡声器、救急箱

8 備考:

- ①動植物の名前を覚えることが目的でなく、自然の楽しさを体感してもらうことが大切である。
- ②動植物の採集に関しては、子供たちの関心、これ以降の授業の進捗などで判断する。例えば、家に持ち帰って家族に見せたい、学校や家庭に持ち帰って写生したいなどの場合には採集もあり得る。無用な採集は避けたほうがいいし、個体数の少ない動植物は保護の観点からも採集は避けるべき。子供たちにもこうしたことをきちんと話して、動植物との付き合い方を理解してもらう。
- ③子供たちによりよく観察してもらうために、講師やスタッフが捕虫網で昆虫を採集することはある。しかし、観察後、採集した昆虫は子供たちの目の前で離してあげ、命の大切さを実感してもらう。